

第5回 防潮堤を勉強する会 各地区情報交換会 一覧表

NO	地区名	1. 話し合い	2. 進め方(まとめ役・専門家)	3. 何を	4. 方向性が出たもの	5. 良くわからないところ	6. 困っていること	7. その他
1	大島	・6月立ち上げ、数回。7世帯	・県土木担当者からの説明 ・養殖業者3名が中心となり県と相談	・背後地の利用方法を要望書にまとめた(背後地の確保、棧橋を岸壁整備へ、嵩上の範囲)	・防潮堤は原型復旧希望(全世帯+地権者の念書)	・背後地の利用方法によって高さが変わるのか? ・地区によって環境、景観を優先できるか?	・地域の意見をまとめる方法(合意形成の手法)	
2	尾崎千岩田	市の説明会のみ(緑地公園化の提案) ・市の次回の説明会待ち(緑地公園化の方向確定次第)			・なし	・防潮堤は仕方ないが、そんなに大きな堤防が必要かという意見もある ・本当に緑地公園化されるのか?	・海の見える海浜公園をイメージしている人は多いが ・巨大な堤防となると色々出そう	
3	階上	・6/27漁業集落防災機能強化事業で。 ・7月の市からの説明会 ・2月から「海への森をつくろう会」	・8/25~9/3集落毎に漁集と合わせ協議6回を開催予定 ・「海べ」は随時講師勉強会開催	・漁業集落復興、養殖業の復旧、地域の安全性	・災害危険区域との相関関係から、高さに対する考え方は認識され始めている様だ	・林野庁管轄のエリアについて、形状や位置が決まっているところは理解しがたい	・防潮堤のあり方が生活空間を大きく変えることになると思われるが、住民が共に考える場が不足している	・防潮堤不要論が入っているため、地域漁業者と一線を画している様だ
4	大谷	・7月から振興会毎に地域振興計画を策定中 ・大谷地区振興会連絡協議会は2回開催	・各地区は振興会独自で ・地区によってまちづくり委員会設置	・防潮堤を含めたまちづくり案 ・大谷全体の課題(海水浴場等)は、連絡協議会で協議	・6つの振興会中、2つは振興計画が出来つつある	・景観や自然環境への配慮等	・大谷全体の課題についての合意形成の仕方	
5	津谷大沢	H23. 10.30震災復興会議設置(振興会が設置、振興会役員、知識経験者、支援団体代表等37名)	・グランドワーク寒河江 ・まちづくり山形(2団体と事前打ち合わせ)	・震災後3ヶ月間被災者民泊方式(49世帯138人) ・地区の復興目標策定	・地区震災復興計画書策定 24.4.25	・構造等専門的事項は対応困難	・漁港施設の早期復旧 ・防潮堤の整備 ・農地海岸護岸背後法面の崩落	・災害復旧は原型に留まらず新設が必要(杉林のふくげん) ・鉄道の復旧見通しと防潮堤
6	小泉	H23.4小泉地区の明日を考える会(立ち上げ、20世帯、水曜定例)	・まちづくり専門大学教授 ・設計会社 ・定例会、ワークショップ、地区民フォーラム	・集団移転、跡地利用 ・地域復興計画	・集団移転事業	・守るべきものは何か? ・背後地は? ・避難路の整備 ・海岸堤と河川堤の関係(排水、水門)	・堤防の高さ(海岸、河川) ・R45、三陸道の盛り土高 ・平面図では解らない凹凸	・海水浴場や鮭の遡上等、自然環境に関わることも多々あり全てを収める事はできないか?
7	唐桑大沢	・H23.6期成同盟会設立 ・10月よりみらい集会開催 各回80世帯	・専門家の支援(ワークショップ、大沢みらい集会)	・高台への移転計画 ・被災地(浸水地)の利用方法		・復興計画の道すじ		
8	唐桑鮪立	・鮪立復興委員会を6月から月1回開催。担当者4~5名で。 ・市との漁業集落意見交換会70世帯参加。	・自治会中心で取りまとめ ・まちづくり100年会の支援(佐藤建築士・大学教授多数で構成)	・防災集団移転 ・海岸防潮堤 ・鮪立地区のまちづくり	・まだない	・建設する場合の位置と場所 ・守るべきものの対象が不明確	・住民と漁港利用者との調整	・漁港の復旧と背後地の利用計画を早急にお願したい
9	鹿折	・市の説明会のみ						
10	鶴が浦	6/28第1回漁集意見交換会8名 市水産課・専門家 7/14第2回漁集意見交換会9名 専門家	・市の担当者、専門家と自治会(専門家・瀬漁村計画、都市設計研究所)	・漁集整備防災強化事業 ・生活実態と嵩上げ、防潮堤 ・一般インフラ、道路整備	・防潮堤計画見直し要望書	・何を根拠に高さ、構造が出たのか不明	・市の管轄のため、県管理の他地域と合同の場合、県管理センターの話となり戸惑う。	・大島架橋や新道路整備事業等と、地域環境や生活状況の変化を見守り、方向性を考える時期に来ている。
11	松岩片浜	・市の説明会のみ				・形式および建設後の沿岸作業場、船の係留場所など	・防潮堤の整備が先行し、居住地の復旧計画が見えてこない	
12	気仙沼魚町2区	H23.10.7自治会と商店会で立ち上げ、27回開催 ・魚町2区復興委員会(15~20名)	・専門家と住民の協働	・魚町2区のまちづくり ・防潮堤、区画整理、イベント	・復興住宅の建設など	・高さがそもそもどうやって決まったのか	・活動資金 ・第一歩目の防潮堤の合意形成が出来ない	・早期復興のため市は最新の情報を開示し、皆で共有すべき。